平成 29 年度
いすみ市介護サービス事業者連絡協議会　第２回研修会(報告書)

日時　平成 29 年 9 月 21 日(木)13 時 30 分から 16 時
場所　大原文化センター　研修室
内容　「感染症対策」
　講演１　冬場に流行する感染症予防と在宅で気になる薬剤耐性菌について
　　講師　亀田総合病院感染症疫学情報センター　看護師　古谷直子氏
　講演２　夷隅保健所における感染症対策
　　講師　夷隅保健所健康生活支援課　副主幹　保田優子氏
　　技師　　長嶋千尋氏
　質疑応答
参加者　38 名

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

（進行　中澤）

１、開会

（保健所　浜名次長）　ノロウィルスとインフルエンザが主な感染症。昨年は 10 月頃から流行。薬剤耐性菌は病院内のイメージだが、在宅医療が進められる中、病院からの注意も促されていると聞く。事業所に戻り伝達研修をして頂きたい。新しい知見についてはマニュアルに追加を。予防に活用してもらいたい。

（小室副会長）忙しい中をありがとうございます。実りある研修に。高齢者障害者の虐待がマスコミに。日々の欲求不満が利用者に向かってしまう。今回のテーマは我々にとって生命線になる内容。明日からの事業所の糧にしてもらいたい。

（いすみ市健康高齢者支援課　鈴木氏）事務連絡。①大原高校福祉学科における介護職の育成をしている。地元で育ち、働いてもらう構想。講師としての協力をお願いしたい。②虐待に関して、スタッフの処遇改善が重要なので、事業所内で話をして頂きたい。

２、講義概要

講演１　冬場に流行する感染症予防と在宅で気になる薬剤耐性菌について

講師　亀田総合病院感染症疫学情報センター　看護師　古谷直子氏

在宅、施設での感染症対策について話す。途中で配布した手袋を使って演習。

感染予防とは。既に知っていることでも思いだすことも意味ある。感染の拡がり方を知ると予防につながる。見えないばい菌を知識で見えるようにして行くことができる。

感染予防は感染症から『患者』『自分」『仲間』を守ること。

感染症の伝播のチェーン（連鎖）を途中で断つことができると、拡がりを押さえられる。

感染性胃腸炎。ノロウィルスは移りやすく、少量の嘔吐にも大量、便には長期間中に存在。前触れなく嘔吐することも。嘔吐による飛散しやすい。処理は手袋やマスク、エプロンを使用し速やかに密封、消毒。予防は手洗いだが絶対的な信用はできない。嘔吐物の処理方法、消毒の方法。手袋使用後にも必ず手洗いを。

◎演習・手袋の上から消毒薬を塗り、外した手をブラックライトで見てみよう

インフルエンザ。飛沫、接触感染。飛沫コントロール（咳エチケット）の重要性。マスクは正確に装着しその後は表面に触らない。アルコール消毒が有効。

薬剤耐性菌。MRSA,VRE,MDRP,CRE 等。標準予防策+接触予防策。

対策の強弱についての見極めができることも大事。

講演２　夷隅保健所における感染症対策

講師　夷隅保健所健康生活支援課　副主幹　保田優子氏

技師　　長嶋千尋氏

（保田氏）

感染症情報について。保健所から月一回、夷隅感染症情報をメール配信している（ホームページにも記載）。100 以上の機関が登録。

腸管出血性大腸菌感染症。食材の過熱、洗浄、手洗いの徹底を。

感染性胃腸炎。11 月から増加。保健所は連絡を受けると積極的疫学調査、感染拡大防止のための指導をチームで実施。回復者の便にもウィルスあり。有症状者が発生したら通報を。

インフルエンザ。先週圏内小学校で県内初の B 型発生し学級閉鎖。ワクチン接種を。

ダニ媒介感染症。日本紅斑熱、ツツガムシ病は夷隅地域の風土病。ツツガムシ病これからがシーズン。庭先でも刺される、住んでいることがもうハイリスク、という認識を。皮膚科、外科で取ってもらうことと、その後の身体状況観察を。

（長嶋氏）

９月に結核予防週間。結核診断したら医師は直ちに届け出。60 代以上や外国人研修生の感染例。飛散菌量は少なく、肺胞に達しなければ感染しない。ただし免疫力の低い人は注意。感染から発病まで二年くらい。発病は感染者のうち 1 割。

接触者検診は、必要な人に適切な時期に適切な検査。ゆっくりとしか進行しないので慌てず冷静な対応を。日常生活に感染の可能性あり。咳が続くなどあれば受診を。

(質疑応答)

A、インフルエンザと診断された母子の同室についてどうしているか。

Q、母がインフルエンザの場合、母に症状が出てから 5 日間は別に過ごしてもらう。母乳必要時は搾乳対応。

３、閉会　（中澤氏）

感染症について知識を持って、未然に防ぐことが大事と考えます。事業所に持ちかえり活かして欲しい。

以上